(6) 美術科　表現力を高める指導
（観察による表現を主として）
＜実践＞①見る，感じる，表わすの基本的なことに力を入れ，見慣れた対象に観察を通して美を発見させ，対象からの感動やイメージを再創造させ，表現のねらいにそってどう形象化するか考えさせた。
②教師自身，生徒の概念くだきを基本練習の中で試み，一人一人のちがいを大切にし，重要さを自覚させた。
＜成果＞身近かなものの中に美意識が芽ばえ，観察することへの集中がでた。自己の表現の変化に気づき，意欲がみられる。観察による描写力が構想表現の中に生かされ，対象をよくみるようになった。

(7) 保体科　自己の体力について理解し，技能と体力の向上をはかる指導
＜実践＞各種の運動に必要な基礎的技能を十分に理解させ，それを生活の中でも実践し，自ら向上をはかろうという心を養うようにした。
＜成果＞技能の向上に努めるようになり，継続的に練習する習慣がつき，体力の向上がみられる。
信頼と協力，心の通い合いのある授業ができる。

(8) 技術家庭科　共存のこころを育てるための小集団学習の工夫
＜実践＞一人一人が課題を持ち，解決の場を小集団に求め，話し合いを活発にし，発表やまとめのしかたを訓練する。学習訓練の過程を検討し，その過程の中に課題発見の過程と小集団学習の場を位置づけた。
＜成果＞忘れ物が少なくなり，集団意識が芽ばえ，助け合う姿がみられるようになった。

(9) 英語科　生徒の活動をより多くし，英語力を身につけさせる効率的指導
＜実践＞①生徒の活動を活発にする指導過程を次のようにした。（目標分析）→〔理解〕→〔練習〕→〔表現〕
②「話す力」をつけるために生徒の活動の時間を十分にとる。話すことに教材を精選して徹底的に訓練する。
③豊かなこころを目指す授業の雰囲気づくり。
＜成果＞基本的な学習訓練が定着し生徒個々の発表力・意欲的主体的な学習への姿勢が芽生え，教師対生徒のあたたかい交流の中で求めるこころの土壌がつくられつつある。

(10) 道徳　自律性を高めるための道徳指導
＜実践＞内面化をはかる指導過程を次のようにくむことにより自己を見つめさせ，自覚させ，自己主張のできる生徒を育てる。【意識化】→【内面化】→【態度化】
＜成果＞授業のねらい，指導のポイントが明確になり，生徒の活動が活発になった。また，生徒達に，わたし達の学校，学級という意識や行動が芽生えた。

(11) 学級指導　話し合い活動をとおして自主性を育てる学級指導
＜実践＞①生徒と教師，生徒相互の心のふれあいをはかりよりよい人間関係をつくることに力を入れる，
②個人の考えを大切にし，話し合いによって，問題，悩みの解決の糸口とし，その積み重ねの過程で自主性を育てる。
＜成果＞生徒の生の問題とかかわったとき話し合いは活発になり深まりもあった。また，資料などの作成で自主的なとりくみがみられるようになった。

(12) 学級会活動　自主性・自発性を生かすために生徒をどのように参加させるか。
＜実践＞①学級の話し合い活動，係活動を活発にし，班ノート等によって生活をみつめさせ，考えさせた。
②リーダーを養成し，学級運営委員会を活動させた。
③短学活の充実と45分授業による30分の生徒活動の時間の確保　④他校との交流視察
＜効果＞①生徒活動の時間によって，学運会，班会議，生徒会の討議事項などに十分活用することができた。
②班ノート等から共通問題をとりあげ，互いに理解し合うことができた。　③奉仕活動が活発になった。

(13) 生徒会活動
生徒活動の時間30分の活用によって，その活動の時間を確保することができ，生徒自身の手で諸行事活動を運営実践できるようになった。

7. 研究の成果と反省

(1) 研究から得られた成果
①非行的問題をもつ生徒が激減した。
②基本的行動が身につき特に礼儀作法が身についた。
③自主的学習態度ができ，自主的活動が盛んになった。
④勤労意欲が旺盛になり，清掃活動が徹底してきた。
⑤生徒と生徒の人間関係が好ましいものになった。
⑥生徒と教師の人間関係（師弟愛）がめばえてきた。
⑦生徒の体験学習の機会の拡充がはかられた。
⑧教師の奉仕の精神がいかんなく発揮された。

(2) 反省
①全職員が「和」をモットーに一丸となり研究に当った。
②決めたことは，みんなで実践した（共通行動）。
③市教委の適切な指導と助言に支えられた。
④父兄の絶大な協力があった。
⑤研究の間口を広げすぎた感がある。
⑥理論研究にやや時間をかけすぎた感がある。

8. 今後の課題

(1) 領域ごとに研究を深める年次計画を立てる。
(2) 変容をどうとらえるか(評価)の研究にとりくむ。
(3) 45分授業による生徒活動の時間30分をいかに充実し深化していくかが今後の課題である。